

第3章 奈良市の高齢者の現況

1. 高齢者の現況と今後の見込み

(1) 人口構成の推移

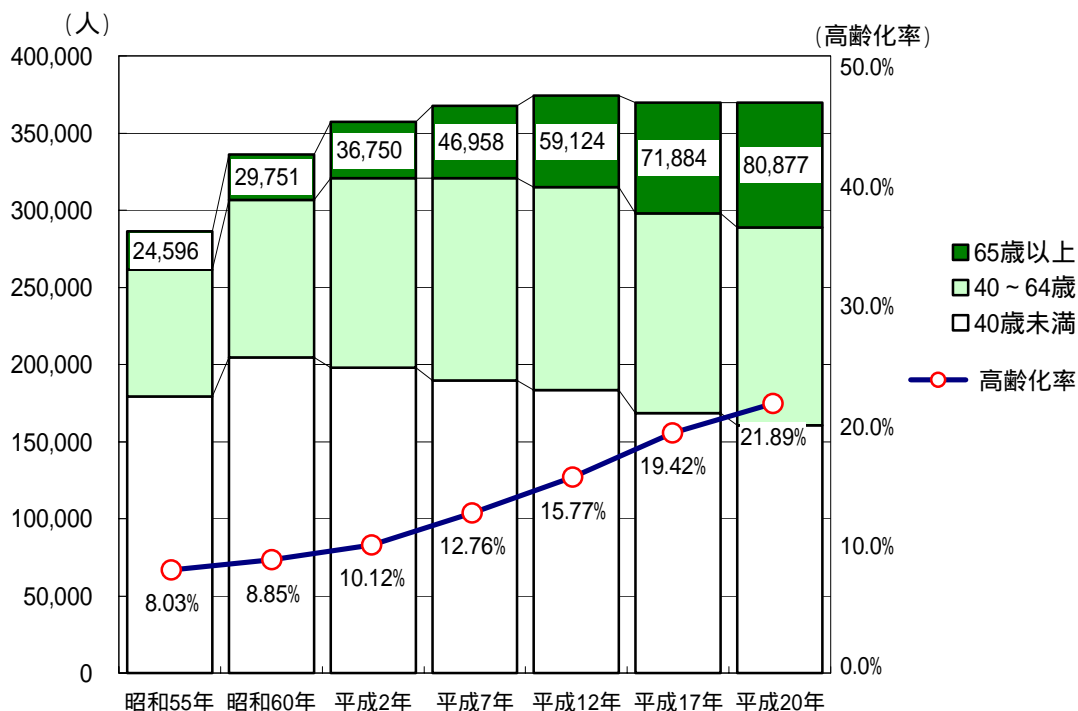
本市の総人口（旧月ヶ瀬村、旧都祁村を含む）は平成12年まで増加を続け、374,944人となっていますが、平成17年では370,102人と減少し、平成20年では369,523人とさらに減少しています。

一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加を続け、平成20年では80,877人に達しており、高齢化率は21.89%となっています。

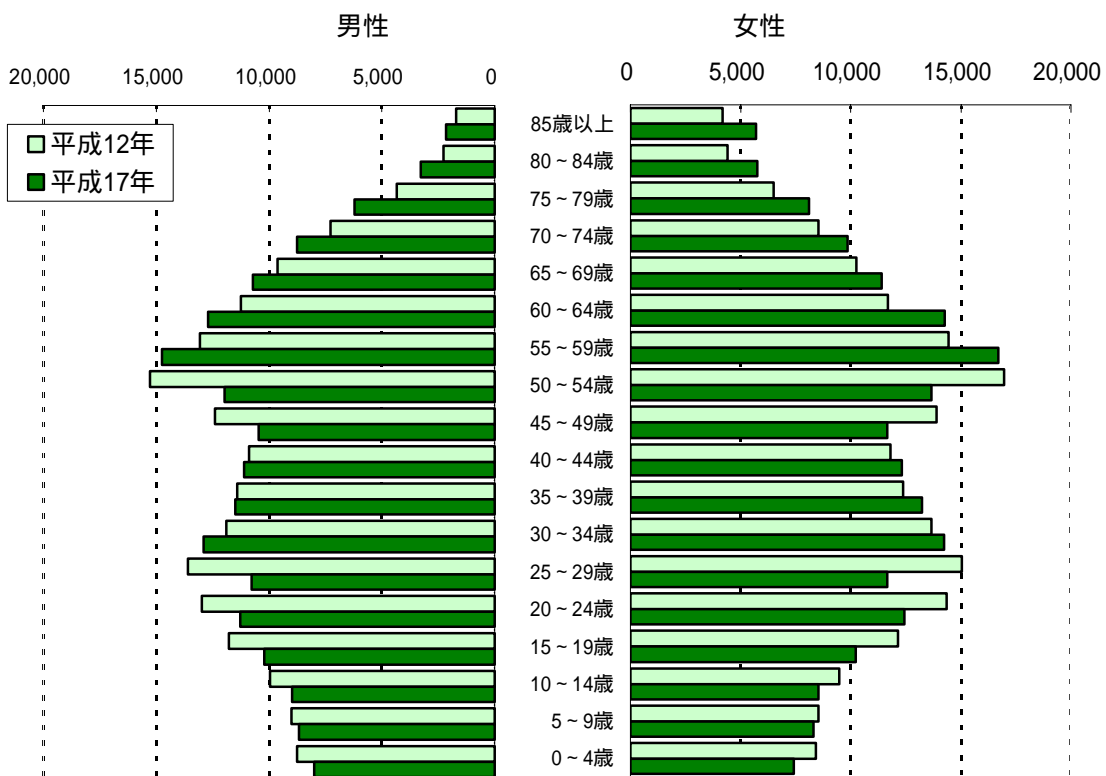
人口推移 単位:人

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年
40歳未満	179,141	204,660	197,728	189,507	183,424	168,356	160,496
40～64歳	82,466	101,772	122,825	131,073	131,630	129,620	128,150
65歳以上合計	24,596	29,751	36,750	46,958	59,124	71,884	80,877
前期高齢者	16,215	18,091	21,614	28,927	35,691	40,706	45,198
後期高齢者	8,381	11,660	15,136	18,031	23,433	31,178	35,679
年齢不詳	20,190	128	5,790	501	766	242	0
総人口	306,393	336,311	363,093	368,039	374,944	370,102	369,523
高齢化率	8.03%	8.85%	10.12%	12.76%	15.77%	19.42%	21.89%

資料は国勢調査より。但し、平成20年は住民基本台帳（10月1日時点）を基にしています。旧月ヶ瀬村、旧都祁村を含みます。



平成12年と平成17年男女別年齢階級別人口分布比較



年齢不詳分は除外しています。

資料: 国勢調査

(2) 計画期間における人口推計

平成12年と平成17年の国勢調査人口をもとに、計画期間の人口を推計した結果、下表のとおりとなります。

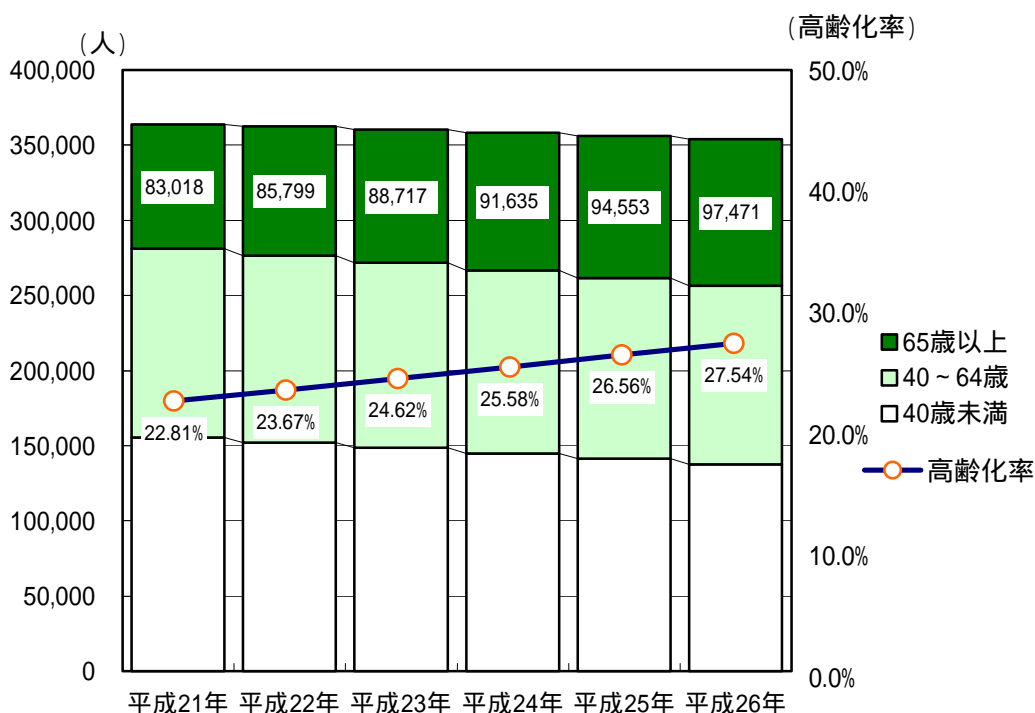
本市の総人口は年々減少し続け、平成23年で360,311人、平成26年には353,906人になると見込まれます。

一方で、65歳以上の人口は増加し続け、平成23年で88,717人、平成26年で97,471人、高齢化率は平成23年で24.62%、平成26年で27.54%にまで達する見込みです。

単位:人

	推計値					
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口	363,957	362,446	360,311	358,176	356,041	353,906
40歳未満	155,325	152,050	148,456	144,862	141,268	137,674
40～64歳	125,614	124,597	123,138	121,679	120,220	118,761
65歳以上	83,018	85,799	88,717	91,635	94,553	97,471
前期高齢者	45,472	46,663	48,135	49,607	51,079	52,551
後期高齢者	37,546	39,136	40,582	42,028	43,474	44,920
高齢化率	22.81%	23.67%	24.62%	25.58%	26.56%	27.54%

推計方法：コーホート要因法

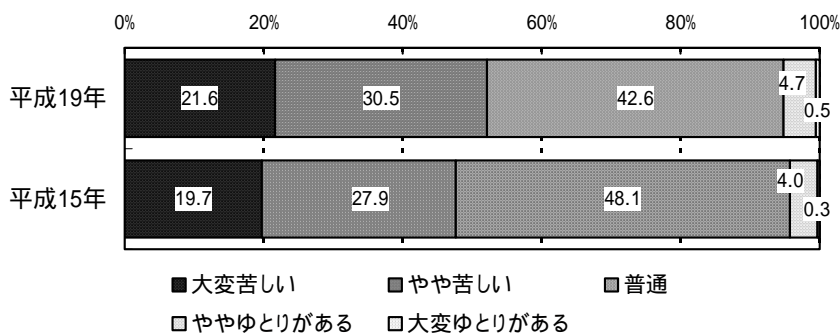


コーホート要因法：人口推計の手法として一般的に用いられる手法で、人口を年齢別に5歳毎の階層（コーホート）に分け、各階層が1年後にどれだけ増減するかを確率として計算するもの。

(3) 全国の高齢者の経済生活

高齢者世帯の生活意識

平成19年には「大変苦しい」と回答した人が21.6%、「やや苦しい」と回答した人が30.5%となり、5割以上の人が「苦しい」と感じています。



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成15年、平成19年)
 (注)高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいいます

高齢者世帯の所得

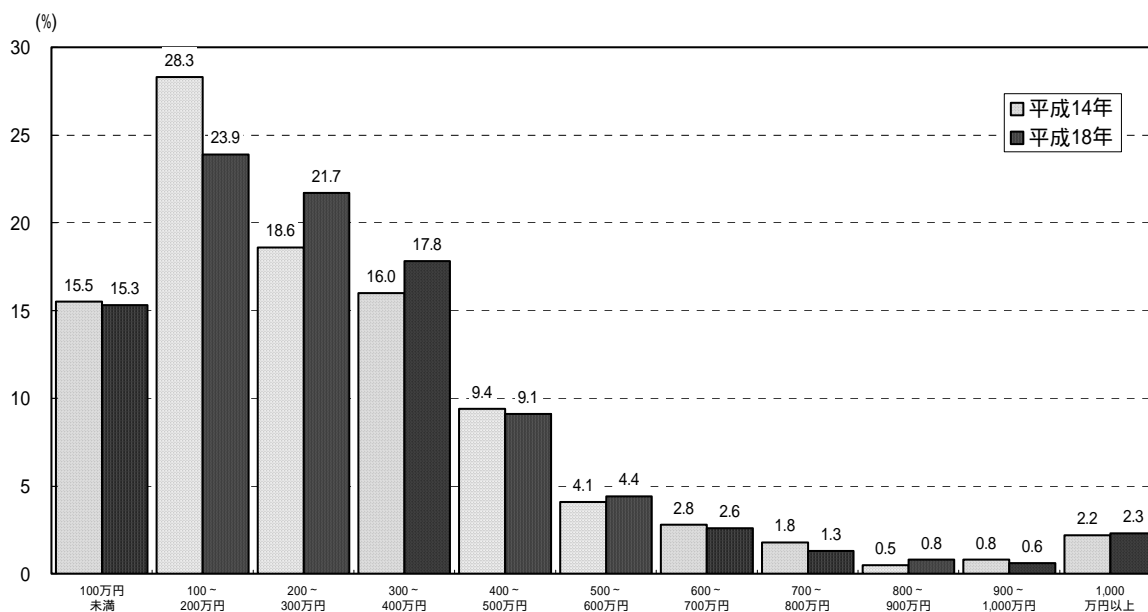
平成14年から平成18年の間、一世帯あたりの平均所得額は1.7万円増加していますが、世帯人員一人あたりでは0.6万円減少しています。

	平均所得金額	
	一世帯あたり	世帯人員一人あたり(平均世帯人員)
平成18年	306.3万円	195.5万円(1.57人)
平成14年	304.6万円	196.1万円(1.55人)

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成15年、平成19年)
 (注)高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいいます。

高齢者世帯の年間所得の分布

高齢者世帯の年間所得の分布を見ると、平成18年では100～200万円が23.9%と最も高くなっています。平成14年と比較すると、100～200万円が減少し、200～400万円が増加しています。



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成15年、平成19年）

（注）高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。

2. アンケート調査及び奈良市民意識調査結果について

(1) アンケート調査及び奈良市民意識調査結果の活用

アンケート調査については、平成20年1月18日から同年1月31日を調査期間として、40歳以上の市民を対象に実施し、その結果を活用しました。なお、配布・回収の状況については、下表のとおりです。また、幅広く市民の意見を反映させるため、平成19年8月に20歳以上の市民を対象に実施した奈良市民意識調査結果の一部を活用しました。

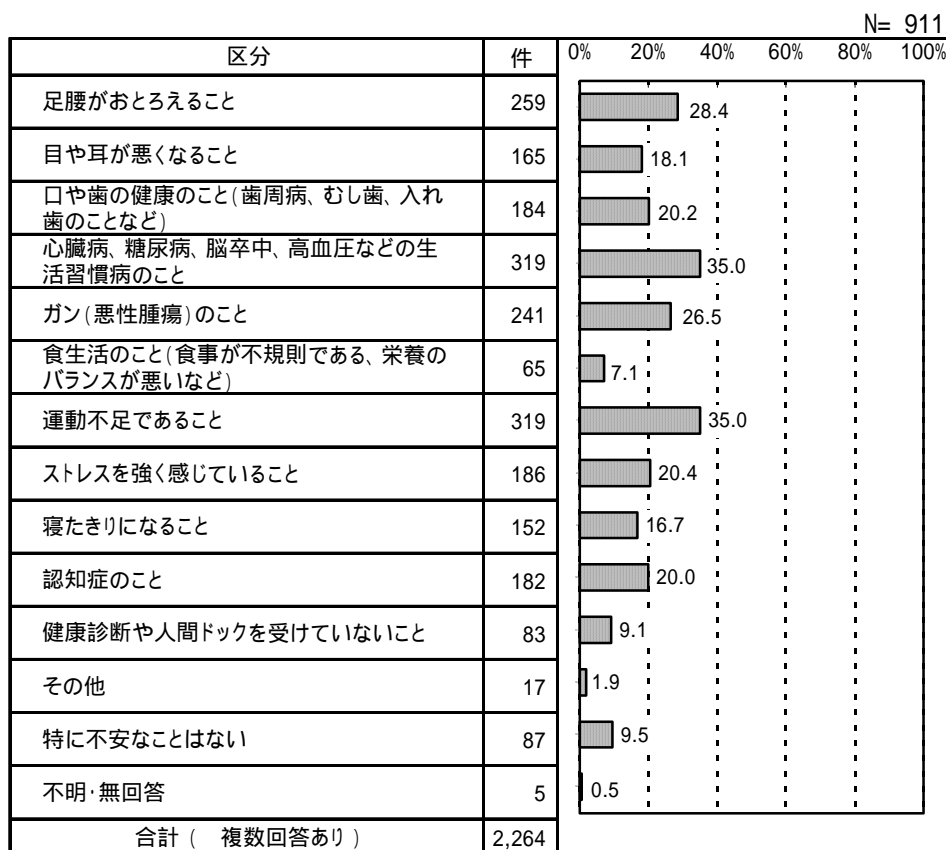
アンケート調査の配布・回収状況

調査対象	要支援・要介護認定を受けていない方で年齢が40歳以上65歳未満の方から無作為で1,800人を抽出	要支援・要介護認定を受けていない方で年齢が65歳以上の方から無作為で1,800人を抽出	要支援・要介護認定を受けている方から無作為で3,000人を抽出
配布数	1,800人	1,800人	3,000人
回収数	915人	1,322人	1,888人
回収率	50.8%	73.4%	62.9%
有効調査票数	911件	1,314件	1,874件

(2) 調査の結果の概要(要支援・要介護認定を受けていない40歳以上65歳未満の方)

健康について気にしていること・不安なこと

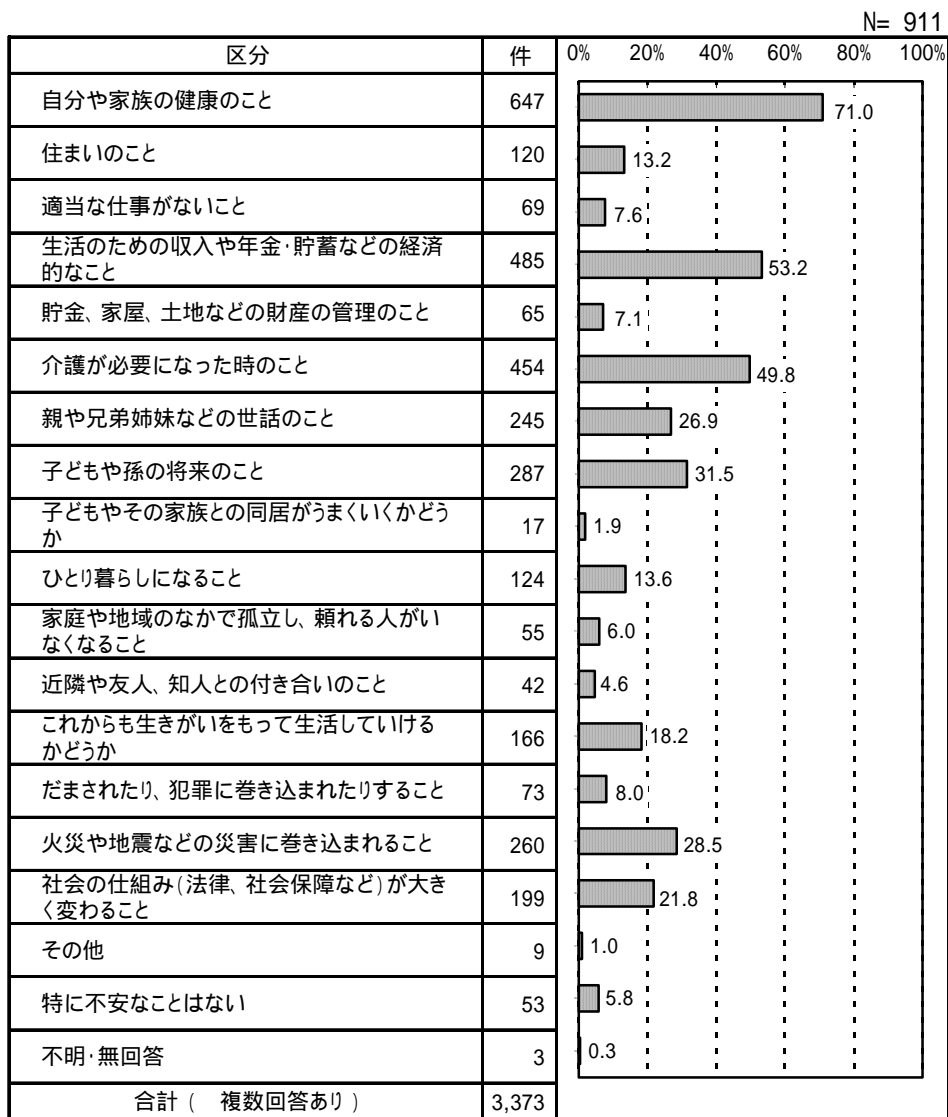
「心臓病、糖尿病、脳卒中、高血圧などの生活習慣病のこと」「運動不足であること」がともに35.0%で最も高くなっています。



アンケート調査結果のグラフで「N」とはサンプル数(=回答者数)を表しています。

日常生活や将来について不安なこと

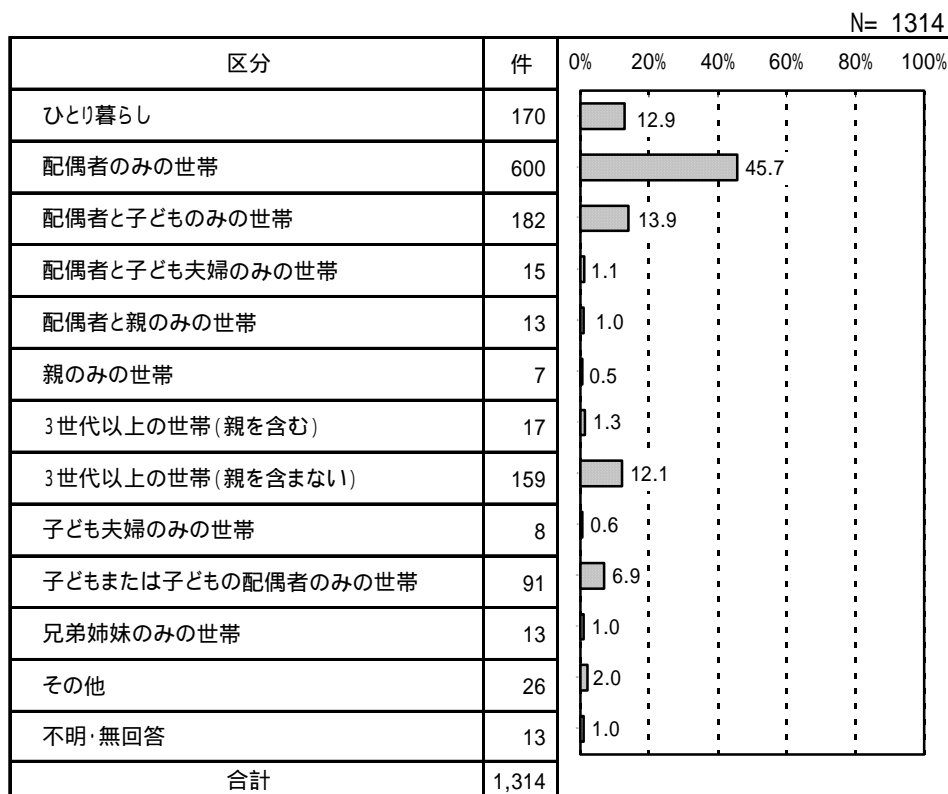
「自分や家族の健康のこと」と回答した人が 71.0%で最も高くなっています。



(3) 調査の結果の概要 (要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方)

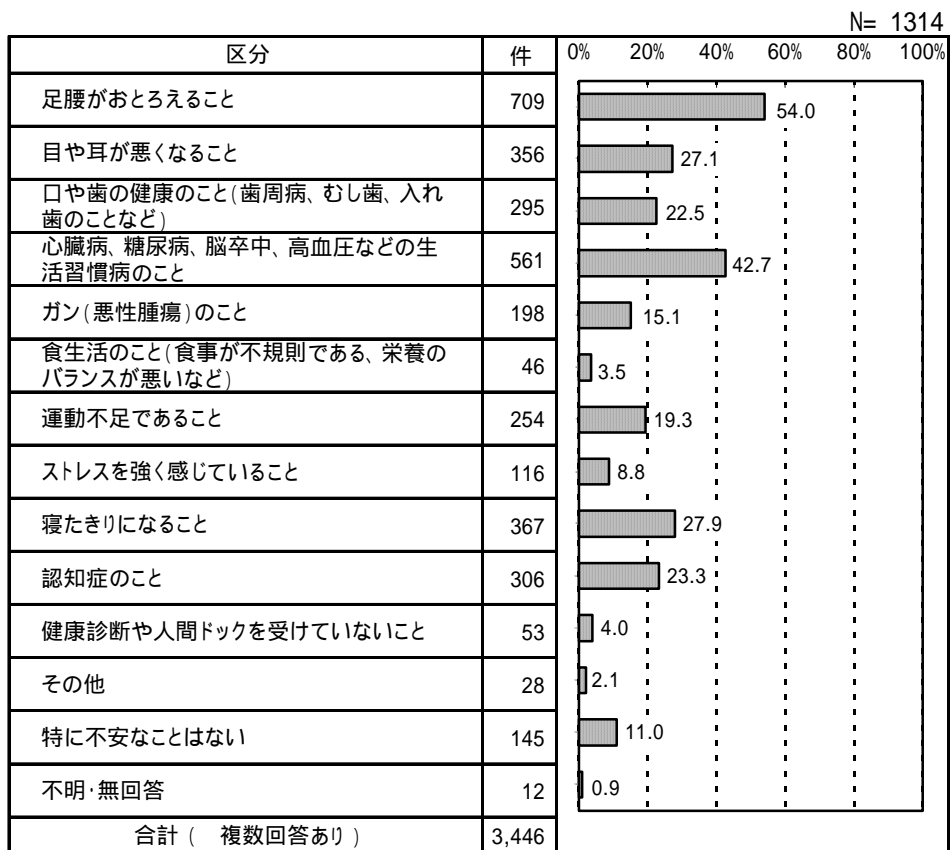
世帯構成について

「配偶者のみの世帯」が45.7%で最も高くなっており、「配偶者と子どもみの世帯」が13.9%と続いています。



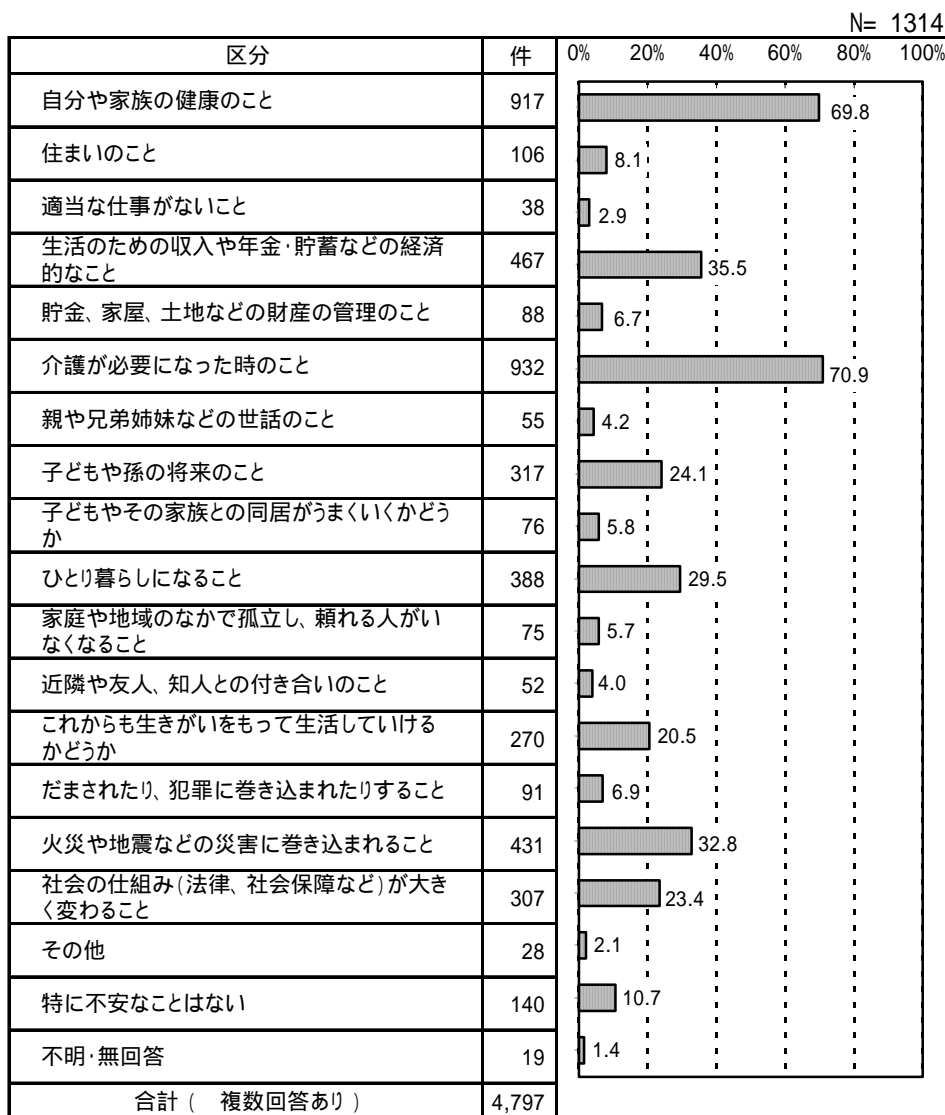
健康について気にしていること・不安なこと

「足腰がおとろえること」が 54.0%、「心臓病、糖尿病、脳卒中、高血圧などの生活習慣病のこと」が 42.7%、「寝たきりになること」が 27.9%、「目や耳が悪くなること」が 27.1%、「認知症のこと」が 23.3%、「口や歯の健康のこと（歯周病、むし歯、入れ歯のことなど）」が 22.5%となっています。



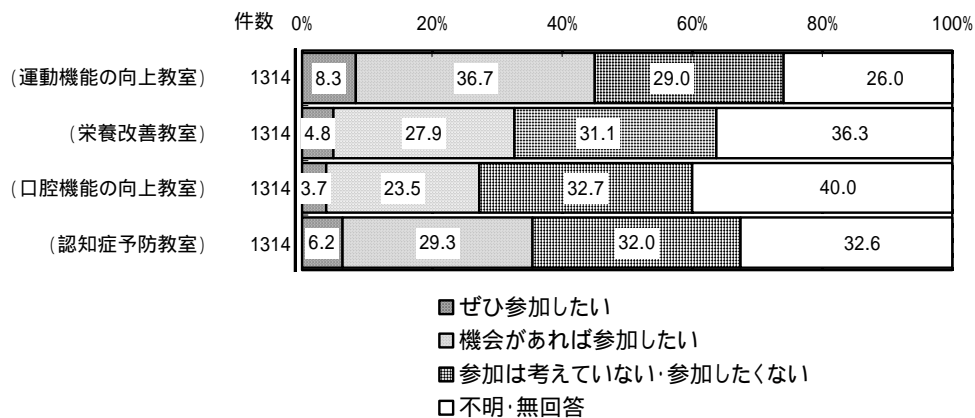
日常生活や将来について不安なこと

「介護が必要になった時のこと」と回答した人が 70.9%で最も高く、次いで「自分や家族の健康のこと」が 69.8%となっています。



介護予防教室の参加意欲

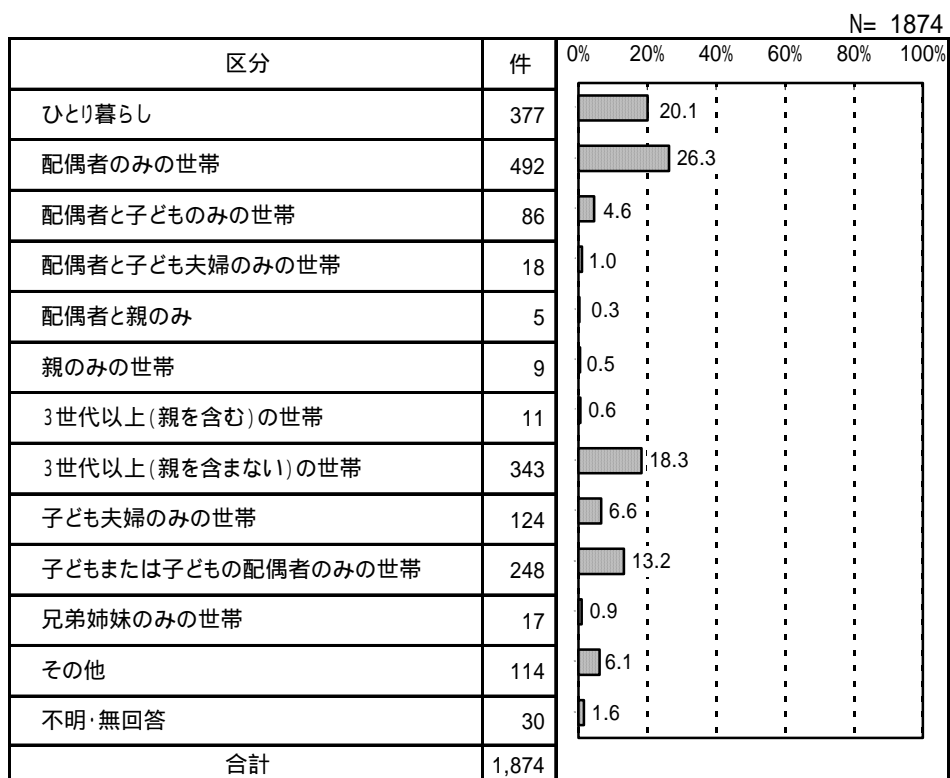
運動機能の向上教室が最も比率が高く、「ぜひ参加したい」が 8.3%、「機会があれば参加したい」が 36.7%で、約 4 割の方が参加意欲を持っています。



(4) 調査の結果の概要(要支援・要介護認定を受けている方)

世帯構成について

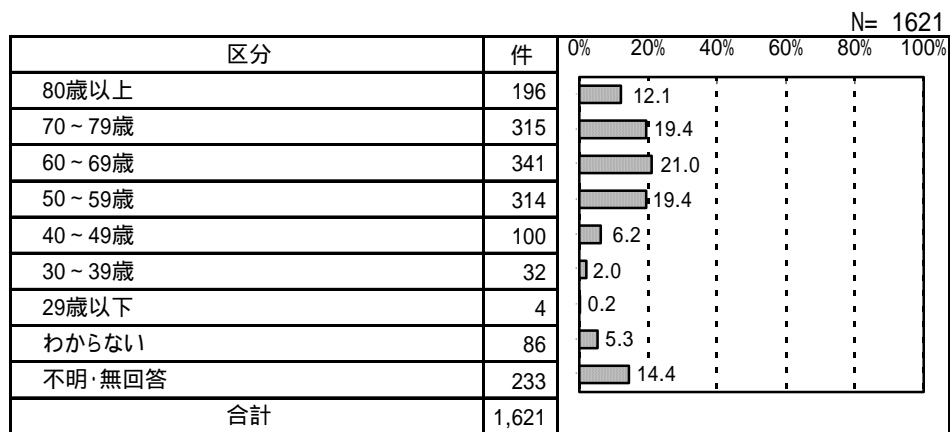
「配偶者のみの世帯」が26.3%で最も高くなっており、「ひとり暮らし」が20.1%と続いています。



第3章 奈良市の高齢者の現況

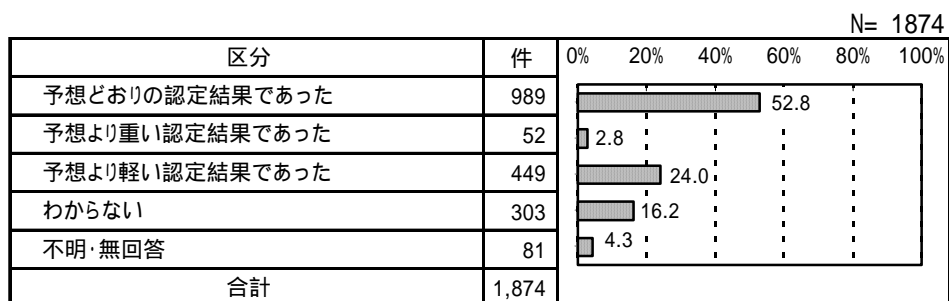
主な介護者の年齢

60歳～69歳の年齢層が21.0%と最も高くなっています。



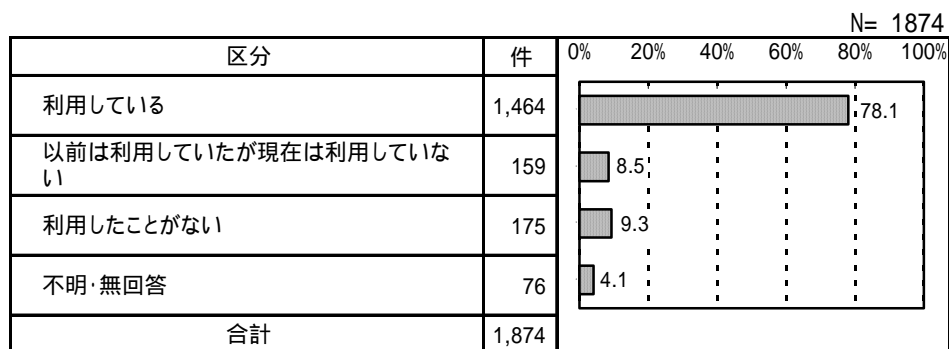
要介護認定結果について

「予想どおりの認定結果であった」が 52.8%と最も高くなっており、次いで「予想より軽い認定結果であった」が 24.0%となっています。



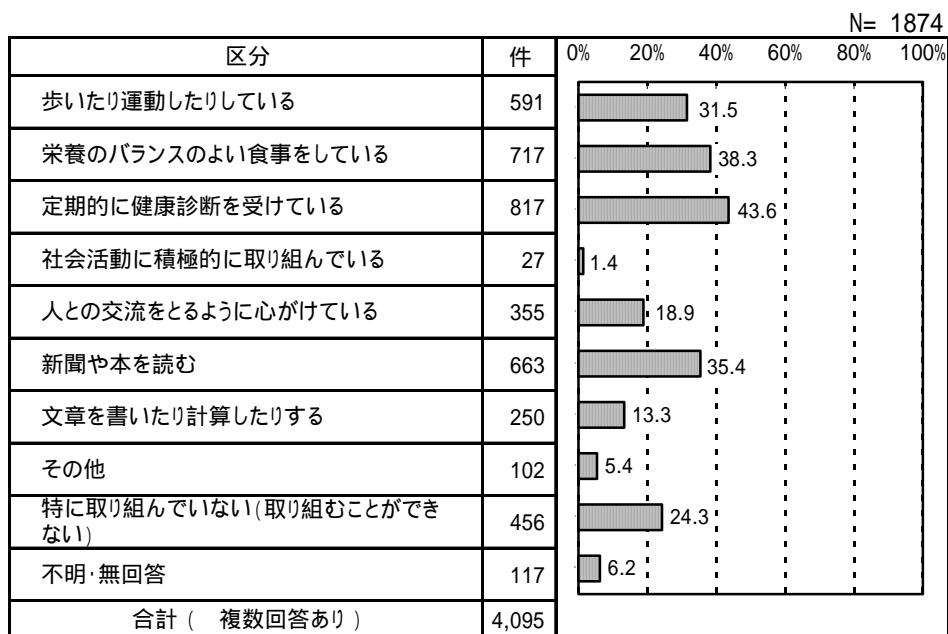
現在の介護保険サービスの利用状況

約 8 割の人が「利用している」と回答しています。



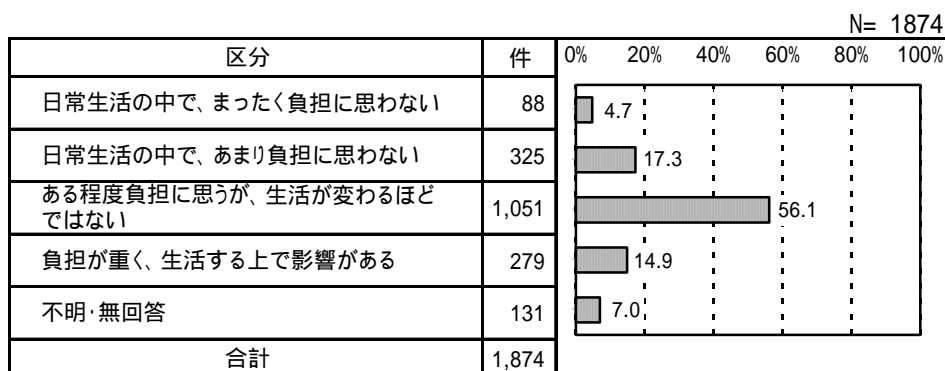
老化防止のために日頃から心がけていること

「定期的に健康診断を受けている」が 43.6%、「栄養のバランスのよい食事をしている」が 38.3%、「新聞や本を読む」が 35.4%で、特に比率が高くなっています。



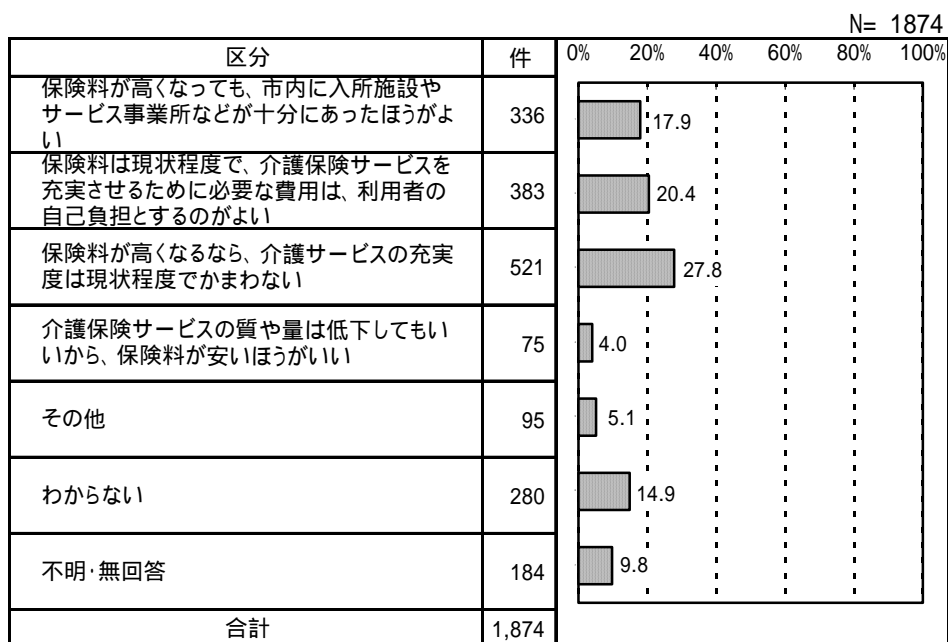
介護保険料の負担感について

「ある程度負担に思うが、生活が変わるほどではない」が 56.1%、「日常生活の中で、あまり負担に思わない」、「日常生活の中でまったく負担に思わない」が合わせて 22.0%となっています。



今後の介護保険料のあり方について

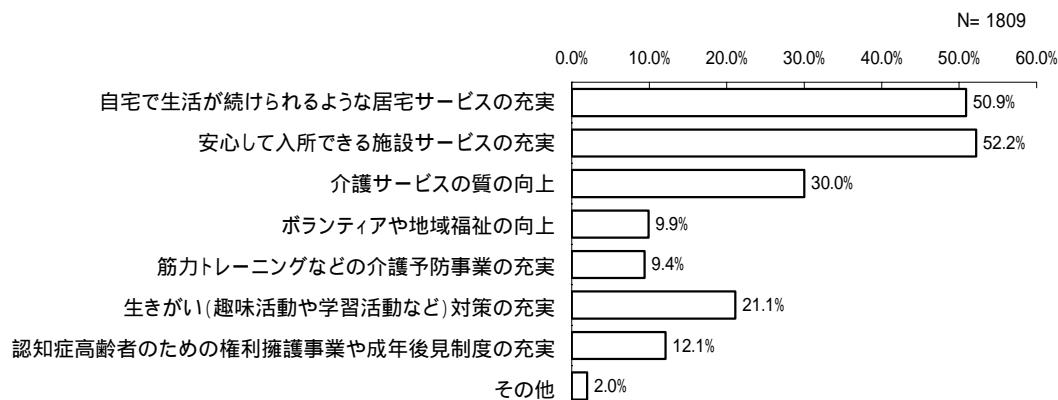
「保険料が高くなるなら、介護サービスの充実度は現状程度でかまわない」が 27.8%と最も高くなっており、次いで「保険料は現状程度で、介護保険サービスを充実させるために必要な費用は、利用者の自己負担とするのがよい」が 20.4%、「保険料が高くなっても、市内に入所施設やサービス事業所などが十分にあったほうがよい」が 17.9%と続いています。



(5) 奈良市民意識調査結果

重要と思う介護保険や老人保健福祉施策について

重要と思う介護保険や老人保健福祉施策についての設問では、「安心して入所できる施設サービスの充実」が最も多く52.2%、次いで「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」が50.9%となっています。



奈良市民意識調査より